



# 国際協力

No.50 2017.1.1

JICA駒ヶ根

## 信州グローバルセミナー2016 開催しました!

12月18日(日)JICA駒ヶ根にて「信州グローバルセミナー2016」を開催し、国際協力に興味がある高校生以上の長野県民136名が参加しました。

本セミナーは、国際協力、国際交流、多文化共生について参加者が学び合うセミナーで、2011年度以降毎年開催し、今年で6回目になりました。

参加者は午前、午後の計12のセッションから興味を持った講座を選択して参加しました。

当日は快晴で、南・中央アルプスがとてもきれいに見えるお天気に恵まれました。

セミナーの基調講演は「長野県の国際戦略プラン」について、長野県県民文化部国際担当部長の大月良則氏から、長野県の国際戦略におけるポテンシャルの高さについて力強いお言葉で講演いただきました。



グループディスカッション

その後参加者はセッション1:「世界の課題と国際協力を知ろう」というテーマの6つの分科会に分かれ、それぞれのセッションを受講しました。

昼食交流会では2種

類のエスニックカレー(ネパールカレーとタイカレー)をいただきながら参加者同士の交流を楽しみました。午後は、セッション2:「長野県の国際協力を知ろう」の6つの分科会を受講しました。



今日の気づきを話し合う参加者

クロージングセッションでは参加者同士、「今日の気づき」を小グループに分かれて共有し、一人の気づきが何倍にも広がることを実感してもらいました。

参加者の一人は、講座のひとつである「スポーツのチカラ～世界中のすべての人々にスポーツの価値と喜びを」(アフリカのマラウイ共和国で「運動会」の普及に取り組んだ講座)を受講した感想として「スポーツは地域の人々を結び力がある。仲間と力を合わせたり、応援したりするだけでなく、対戦相手をも称賛したりすることで、地域の住民の結びつきを強くする。他地域住民との結びつきも生まれ、新しい価値を生み出す力があることに気付いた、自分が住んでいる地域でもぜひ、実践してみたい」と述べられました。今回実施した分科会は以下のとおりです。

### セッション1 テーマ「世界の課題と国際協力を知ろう」

- 講座A** 「**貧困**」の根っこには何がある? ～タイの貧困、日本の貧困～  
講師 下田 寛典氏 (特活) 日本国際ボランティアセンター
- 講座B** わたしから始める **世界が変わる** ～**飢餓**をゼロにしよう～  
講師 浅野 陽子氏 (一財) 日本国際飢餓対策機構 愛知事務所
- 講座C** **持続発展のための人づくり、地域づくり** ～様々な格差を乗り越える力～  
講師 龍田 成人氏 外務省NGO相談員 (特活) 名古屋NGOセンター 常務理事
- 講座D** 「**幸福の国づくり**」は、いま ～ブータン王国で進む草の根の福祉活動～  
講師 中島 民樹氏 (特活) 佛子園 ブータン事務局長
- 講座E** **スポーツのチカラ** ～世界中のすべての人々にスポーツの価値と喜びを～  
講師 坂田 真吾氏 (公社) 青年海外協力協会 (JOCA)
- 講座F** 「**災害に強い社会を人々に**」～持続的な開発に向けた防災の挑戦～  
講師 後藤 光氏 JICA 地球環境部 防災第2チーム課長

### セッション2 テーマ「長野県の国際協力を知ろう」

- 講座G** **開発途上国の現場で気づいたこと** ～高校生が取り組む国際協力～  
(海外スタディツアー参加の東信・南信高校生セッション)  
講師 上田高校生徒4名 南信地区高校生5名  
上田高校SGH (スーパーグローバルハイスクール) フィリピンスタディツアー参加高校生  
南信地区カンボジアスタディツアー参加高校生グループ
- 講座H** **大学が取り組む国際協力** ～大学の知見と地域リソースで信州らしい国際協力～  
講師 根本 和洋氏 信州大学農学部 大学院農学研究科 助教
- 講座I** **先生が変われば生徒も変わる!** ～教育現場で取り組む国際協力～  
講師 川尻 年輝氏 小谷村立小谷小学校 (教師海外研修・モンゴル派遣)  
宮澤まどか氏 長野県中野西高校 (教師海外研修・タイ派遣)
- 講座J** **市民と取り組む国際協力** ～駒ヶ根市の事例～  
講師 福澤 修氏 駒ヶ根市総務部企画振興課 中央アルプス山麓開発推進室長
- 講座K** **長野オリンピック・パラリンピックのレガシー (遺産)**  
講師 笠原 亜希子氏 NPO法人 響つないで 長野市民フェスティバル 理事
- 講座L** 「**なぜ欧米のハイカーが木曾の中山道に惹かれるか**」  
～「Wonderful, Beautiful, Good」の評価と海外誘客のポイント(インバウンド)～  
講師 藤原 義則氏 (公財) 妻籠を愛する会 理事 南木町観光協会 事務局長

秋晴れの中10月16日(日)、募集時期に恒例の一日体験入隊がJICA駒ヶ根訓練所にて行われました。

長野県内は元より、遠方は千葉県や富山県などから合計60名の皆様が参加されました。今回の体験入隊は、午後に「模擬面接」「応募用紙の添削指導」などの選択制のプログラムを企画し、ボランティアへの応募を真剣に考えている方も多く参加されました。

実際に面接を担当している訓練所長などによる模擬面接、応募書類の添削などを実施した選択制プログラムは参加者からとても好評でした。また毎回評判の「現在派遣中の隊員とのSkype交信」では、インドに派遣中の飯田陽平隊員と通信が行われました。途中Skypeが繋がらないハプニングもありましたが、参加のみならず飯田隊員へ色々な質問が出て、とても盛り上がりました。

また来年の春募集時期(2017年3月31日～5月10日の予定)にも、一日体験入隊や県内各地で募集説明会を行います。楽しみにしてください。



# シリーズ 世界から、地域で活躍！

今回は、県外ご出身で現在長野県でご活躍の方々です！

## 信州で活躍する元協力隊員に聞きました！



駒ヶ根市在住  
しおざわ あやの  
**塩澤 綾乃さん**  
平成14年度2次隊  
派遣国：マダガスカル  
職種：助産師  
出身：青森市

### Q1：協力隊員となったきっかけは？

助産師として女性のライフサイクル全般に関わる仕事がしたいと思ったからです。病院に勤務する助産師は、女性の妊娠からお産の入院中、産後1ヶ月健診までのケアと、母子とのかかわりが短いので、それ以外の仕事で助産師としてできることに挑戦してみたいと思いました。

### Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

マダガスカル地方都市の産院を拠点に活動していました。中央高地だったので雨季は暑かったですが、乾季はとても寒く私の中で南国のイメージが払拭されました。活動は産院で分娩助産、予防接種、衛生教育をしたり、貧困地区で子どもの体重測定や栄養指導、母乳育児支援、家族計画指導をしました。2年間はあっという間で、どの活動もやり残した感がありますが、現地の人たちとのやり取りがとても楽しく、常に心地よい温かさにも包まれていたと思います。マダガスカル人は日本人と似ていてとてもシャイですが、とても優しくおおらかで我慢強い印象でした。



隊員時代の乳児への予防接種の風景

### Q3：現在の活動について教えてください。



助産学生への授業風景

長野県看護大学の母性・助産看護学分野の教員で、看護師教育、助産師教育をしています。授業や実習では、途上国で学んだおおらかさで学生と接するよう心がけています。現在は自分が直接途上国支援はできていませんが、授業で体験談を話し、国際協力に興味のある学生の相談に乗ったりして、海外で活躍する看護師・助産師の人材育成に協力しているつもりです。

### Q4：協力隊になる方へのメッセージをお願いします。

2年間は本当にあっという間なので、体調管理に気を付けて活動を楽しんで欲しいです。現地では自己主張も大切ですが、現地で学ぶことも沢山あるので、謙虚な姿勢も大切かなと思います。



長野市在住  
さかくち ゆきこ  
**坂口 由貴子さん**  
平成13年度1次隊  
派遣国：バヌアツ共和国  
職種：小学校教諭  
出身：宮城県

### Q1：協力隊員となったきっかけは？

大学生の時、海外に行くなら現地の生活を見てみたいと、タイで小学校を建設するボランティアに参加しました。言葉が通じない中でも現地のの方々と一緒に活動する楽しさを感じ、また自分の視野が広がったので、今度は、長期でじっくり腰を据えて自分の得意とするところで何か役に立てたらと思い、協力隊に応募しました。

### Q2：派遣国での活動の様子について教えてください。

教員養成校に配属だったので、教員経験が豊富な生徒や先生が多く、逆に教えてもらうことばかりでした。近くの小学校にも音楽の教員として巡回指導に行きましたが、子どもたちはノリがよくて目をキラキラさせて歌っていて、こちらも楽しく活動ができました。日本では考えられないようなことがいくつもあり、最初はいまいち不満を言っていたのですが、だんだん慣れて受け入れられるようになりました。



バヌアツの子ども達と一緒に

### Q3：現在の活動について教えてください。

長野市の小学校で特別支援教育に携わっています。国際理解教育の担当として、今までバヌアツを始め、いろいろな国の方々や学校と交流する機会があり、交流している国の学校に子どもたちと訪問したこともあります。その時に、協力隊での経験はとても役に立ちました。また、長野県青年海外協力隊OB会に参加して、いろんな方々から刺激を受けています。



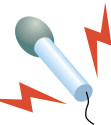
長野市の小学校での様子

### Q4：協力隊の経験がどう生きていますか？

仕事でいえば、特別支援教育は、その子一人一人のニーズに合わせた支援を関係機関と連携を取りながら考えていくのですが、隊員時代の「自分の活動はバヌアツの事情に合っているのだろうか？」とみんなで考えて実践した経験が生きていると思います。性格的なことと言えば、「何とかなるかな」と楽観的に思えるようになりました。同期隊員とのつながりも続いていて、人とのつながりを大切にするようになりました。

# イベント・レポート

Event Report



10/26

## 2016年度JICAボランティア帰国報告会を開催

2016年第3回目のJICAボランティア帰国報告会を10月26日(水)に駒ヶ根青年海外協力隊訓練所、小講堂で開催いたしました。平成26年度2次隊で長野県出身者である以下3名の方に帰国報告をしていただきました。(カッコ内は職種、派遣国)

新関三保子さん(社会学・文化人類学、ベトナム)、北原美樹さん(小学校教育、ドミニカ共和国)、下野理紗さん(助産師、ボリビア)

スタッフを含め45名が現地での活動の様子、生活等について聴講しました。

新関さんはご自身の所属先であるベトナム女性博物館の日本語パンフレットを作成したこと、北原さんはボランティアという立場で、自分をマネージメントしてくることの大変さ、下野さんは日本と任国のお産の様子が違うことにショックを受けたことなど、3名それぞれ、とても興味深いお話をしてくださいました。参加者からは積極的に質問があり、会が終了しても話は尽きない様子でした。次回の帰国報告会は2017年2月3日(金)、駒ヶ根訓練所で開催予定です。皆様のお越しをお待ちしております。



11/17

## 県内初“健康長寿”をテーマとした自治体間連携セミナーを開催

11月17日(木)に松本市にて、自治体間連携セミナーとして、JICAの地域保健医療関連事業紹介セミナーを開催しました。このセミナーは、長野県が今年度改定した国際戦略で掲げている「世界に貢献するNAGANO」で取り上げている「健康長寿」をテーマに、JICAとの連携の可能性や支援事業や人材育成としての国際協力を紹介しました。

また、地域保健医療分野でJICAの各支援事業を活用いただいている佐久大学、駒ヶ根市、株式会社信州セラミックスに活用事例を紹介いただき、他の地域や団体での今後の実践の可能性を探りました。



佐久大学の清水教授の発表



信州セラミックスの櫻田会長の発表

セミナーには長野県内の市町村の保健医療担当職員、医療機関職員、教育機関教職員をはじめ出演者や関係者を含め50名を超える皆様に参加いただきました。

JICA駒ヶ根では、本セミナーをきっかけに今後県内の多くの自治体や団体、企業の皆様がJICAの各支援プログラムを活用いただき、長野県において「日本も元気にする国際協力」を実践いただけることを期待しております。

11/27

## 第13回クロスカルチャーデー in KOMAGANEを開催

このイベントは海外からのゲストを駒ヶ根に招待し、駒ヶ根のいい所をたくさん味わっていただき、「国際協力の町駒ヶ根市」を広めようと、地元の方々と実行委員会を作り、実施しているイベントです。

今回は、エジプト、イラン、アルメニア、ラオス、メキシコ、ペルー、サモア、ヨルダン、パレスチナ、ネパール、コートジボワール、セネガル、トーゴ、マリ、ブルキナファソの15か国から、合計20名のゲストと市民のみなさま、現在駒ヶ根訓練所で訓練を行っているボランティア候補者とを合わせて総勢約100名で開催しました。

イベントは伊那耕地いきいき交流センターにて開催し、しめ縄(おやす)作り体験やまゆクラフト体験、餅つきを行いました。昼食には、地元の食材を使用した料理と出来立てのお餅を囲んで、国際交流することができました。ボランティア候補者は、主に訓練言語を駆使して、市民の方々と海外ゲストの交流の橋渡しをしていました。

イベントの最後には参加者全員で伊那節を踊り、感動の中、幕を閉じました。

駒ヶ根市は、季節に応じて様々な表情を持っておりますので、地域の方々と連携・協力して、今後も素晴らしいイベントを行っていかうと思います。次回は、2月に開催予定です。



# JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援

## 民間連携事業スリランカ視察調査団を実施。

JICA駒ヶ根では、スリランカにおけるJICAの民間連携ボランティアや中小企業海外展開支援事業などを視察する「民間連携事業スリランカ視察調査団」を2016年11月に実施しました。



本視察調査団には、長野県内の企業・団体から5名、県内メディアから1名が参加。出発前には当訓練所にて事前説明会を行い、シンハラ語の授業見学やスリランカのシニア海外ボランティアOBから現地の様子を伺いました。

視察調査団は、11月20日～26日の日程でスリランカのコロomboおよびキャンディを訪問。コロombo及び周辺地域では、民間連携ボランティアをはじめ3名の青年海外協力隊員の活動を視察。キャンディでは、3名の青年海外協力隊員の活動、円借款による浄水場事業を視察。またJICA中小企業支援事業を実施している3つの企業の事業を視察し、それぞれの取組みを学びました。



ボランティアから活動を伺う調査団メンバー

またコロomboでは、JICAスリランカ事務所は勿論、JETROコロombo事務所や在スリランカ日本大使館も訪問し、スリランカの現状や投資環境、開発課題や各機関の企業への支援プログラムについても学び、スリランカへの進出のメリットや課題、現地での人材育成など、多くの貴重な情報を得ることができました。

JICA駒ヶ根では、今後も長野県内の企業・団体を対象とした同様の視察調査団を実施出来ればと考えております。県内の企業・団体の皆様、次回の視察調査団へのご参加をご検討ください。

## 草の根技術協力事業

### 信州大学が草の根技術協力事業を開始しました！

11月15日、信州大学がネパールの農業高校のカリキュラムを改善し、農家の現金収入の向上に貢献できる人材育成を目指すことを目標に「ネパール国：農業高校の教育強化プロジェクト」(JICA草の根技術協力事業：協力支援型)を始めました。

12月7日に信州大学農学部において、記者発表が行われました。

プロジェクトマネージャーの同大学農学部大学院助教の根本和洋氏は、「プロジェクト実施地であるネパール西部コバン村は気候や作物環境が信州と似ている地域、新しい農業技術を組み込んだ技術移転としたい」と抱負を述べ、駒ヶ根訓練所の清水所長は「今年は両国の国交樹立60周年、若者が参加し、魅力的な農産物生産のモデル事業に」と期待を述べました。



コバン農業高校から見えるダウラギリ山(8167m)

## JICA長野デスクの窓から♪

### 国際理解教育の広がり

今年になって、「国際理解教育を本格的に導入したいんだけど…」というご相談をいくつかの学校からいただきました。

JICA駒ヶ根では様々なプログラムを活用し、小学生から大学生・一般の方を対象に、国際協力への関心を高めるお手伝いをさせていただいています。

たとえば、「国際協力出前講座」。青年海外協力隊のOB・OGを、学校の授業や講演に講師として紹介しています。途上国での体験を、臨場感を持ってお話します。

写真は、12月3日に長野市の文化学園長野中学校で全校生徒68名を対象に行われた「国際協力出前講座」の一コマ。



2時間たっぷり時間をいただき、①ODAとは、②JICAが行う国際協力、③国際理解

ワークショップ、④青年海外協力隊体験談、と、フルコースのとても濃い内容を行いました。依頼元の先生からは「国際理解、キャリア教育、道徳教育、すべてに通じる内容でとてもよかった」と喜んでいただけました。



中学校での出前講座依頼はそれほど多くはないのですが、進路選択・学習内容との関連・理解度などにおいて、国際理解教育を行う最適な時期です。

出前講座以外にも、駒ヶ根訓練所を訪ねる「施設訪問」(随時)、夏休みの宿題に最適な「エッセイコンテスト」(8月頃募集)、先生自身のスキルアップにつながる「国際理解教育指導者セミナー」(11月頃開催)、生きた体験を生徒に伝えるための「教師海外研修」(4月頃募集)など、多岐にわたるプログラムがございます。

ご希望の方にはパンフレットをお送りいたしますので、お問い合わせください!

長野デスク:026-235-7186

(長野県国際化協会内 榎本)

# 国際理解教育指導者セミナー

11月18・19日、長野県総合教育センターで、2016年JICA駒ヶ根 国際理解教育指導者セミナーが開催されました。今年度は、NIED・国際理解教育センターの伊沢令子先生を講師にお迎えし、述べ27名の方が参加しました。セミナーは2日間に渡って、国際理解教育の目的と内容(5つの柱)について体験を通して理解できるように進められました。多様な参加手法を取り入れてセッションは進められ、参加者が他の機会でも色々な



アイスブレイキングの様子



グループディスカッション

手法を活用できるようにと配慮されていました。

今年度は、学校の先生以外にも、国際理解教育に関わっている協力隊のOB・OGの方々も参加されていたため、参加者からは、色々な職種の方と交流が持てて視野が広がったという意見もありました。

経験豊かな伊沢先生のファシリテーションは大変分かりやすく、参加者の100%の方が大満足でした。

来年度も開催する予定ですので、多くの先生方や国際理解教育に興味のある方にご参加いただけたらと思っております。



に配属されており、村で適切な養蚕技術の普及と農家の収入向上に向け、日々活動をしています。最近村での調査を終え、これからまさに養蚕技術普及と収入向上に向けたプロジェクトが動き出すところです。いくつかのプロジェクトがありますが、その内の一つは養蚕農家の自助グループの形成です。同じ村内でも各農家の持っている知識・技術、抱えている問題は様々。そんな農家をつなげ、自助グループを形成し、知識・技術の共有を促進し、農家自身による課題解決・技術力向上を図ることが目的です。農家さんは私を温かく迎え入れてくれ、訪問をするとよくチャイを出してくれます。何件も訪問するので何杯ものチャイを農家さんと一緒に飲むときも。インドのゆったりとした時間の流れを楽しみながら、今後も現地の方と共に考え共に活動をしていきます。



いつも温かく迎えてくれる農家さん

ナマステー! 私は現在、インド北部に位置するウッタラカンド州の州都、デラドゥーンで活動をしています。北は中国、東はネパールに接しており、私の家からはヒマラヤ山脈を望むことができます。インドの中で



村での調査の様子

も北に位置しているので、冬はとても寒くダウンジャケットを着ないとやっていけません。私の任地よりさらに北にいくと雪も降ります! 私はインド繊維省の中央蚕糸局

## 帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動  
お疲れ様でした!!



平成26年度2次隊  
にいぜき みほこ  
新関 三保子 さん  
(松本市)

●派遣国: ベトナム  
●職種: 社会学・文化人類学

ベトナムには、一番美しい季節である秋を讃える歌「Hà Nội mùa thu」(邦題:ハノイの秋)という有名な歌があり、私は2014年、一番美しい季節にベトナムの首都ハノイにあるベトナム女性博物館に派遣されました。



ディスカバリールームでのワークショップ

この博物館は、政治団体であるベトナム女性連合の傘下にある、世界でも珍しい女性をテーマにした博物館であり、私は日本語案内の作成、広報、収蔵品へのアドバイスなど博物館側からの要望の他に、日本人を含む外国からのお客様へのサービス向上への提

案、資料や企画書作成、時にはチケットオフィスや受付など様々な活動を行いました。学生時代はベトナムが専門でなかったため、毎日が勉強、という感じでしたが、任期中にはジェンダー教育へのサポートを始め、貴重な経験を沢山させてもらいました。



ベトナム女性博物館の同僚とともに

2016年、美しい秋のハノイを後に帰国しました。とにかくがむしゃらに自分ができることを精一杯やってきたつもりでしたが、それ以上に沢山のことを学ぶことができ、感謝の気持ちで一杯です。今でも、目を閉じるとバイクのクラクションや、街の喧騒、近所の家で飼っていた鳥のさえずりが聞こえてくるようです。全てが懐かしく、本当に楽しい2年間でした。

# Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

## 派遣前訓練公開講座 参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

- ▶ **JICAボランティア事業の理念と目標**  
内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動  
1月19日(木) 15:10～17:00  
定員：10名 講師：小川登志夫 青年海外協力隊事務局 局長
- ▶ **JICA事業概要**  
内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要  
1月23日(月) 15:10～16:00  
定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員
- ▶ **映画「クロスロード」上映会**  
内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田（黒木啓司）は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…  
1月28日(土) 15:10～17:00  
定員：20名

- ▶ **国際関係と日本の国際協力**  
内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。  
2月8日(水) 15:10～17:00  
定員：10名 講師：廣野良吉氏（成蹊大学 名誉教授）
- ▶ **地球のステージ(コンサート)**  
内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。  
2月15日(水) 15:10～17:00  
定員：50名 講師：桑山紀彦氏（地球のステージ事務局）
- ▶ **異文化適応概論**  
内容：文化とは何か、異文化理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するにはどういったことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構えを説く。  
2月22日(水) 15:10～17:00  
定員：10名 講師：関谷雄一氏（東京大学大学院 総合文化研究科 准教授）

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。  
ホームページ <https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

## 2016年度3次隊(3名) **長野県出身新ボランティア** 行ってきます!!



**両角 あずさ**さん (下諏訪町) 派遣国：ラオス 職種：公衆衛生  
ラオスの教員養成校で、健康教育と環境教育の授業支援に携わります。フレッシュさを強みにたくさんを感じ、吸収し、ラオスの方とともに成長していける2年間にしていきたいです。



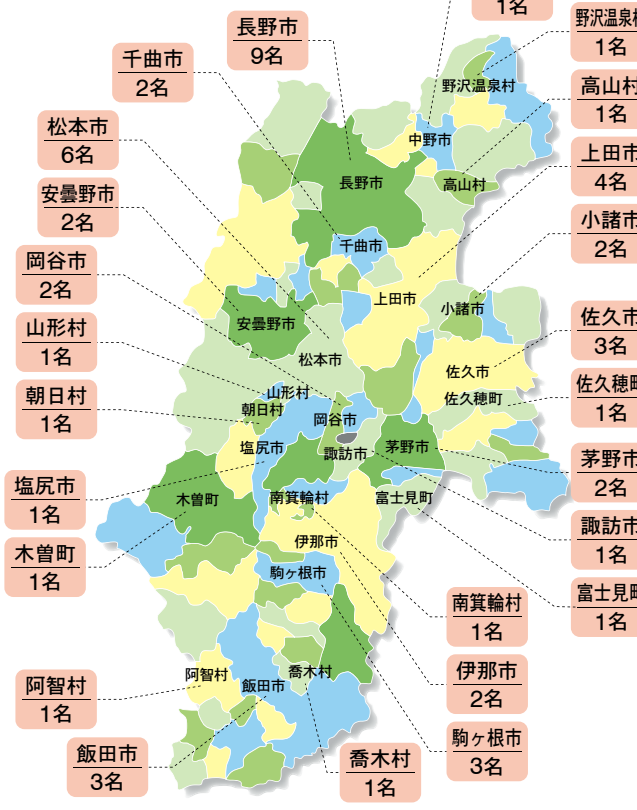
**金子 琴美**さん (佐久市) 派遣国：東ティモール 職種：体育  
やっとなつかんだこのチャンス!JOCVで活動すること、それはわたしにとっての幼いころからの夢焦がれたことでした。スポーツを通じて、開発途上国の人々に笑顔を送りたいと思います。



**徳竹 野原**さん (長野市) 派遣国：マラウイ 職種：コミュニティ開発  
初めまして!長野市出身の徳竹野原です。コミュニティ開発分野でマラウイの農業普及所へ派遣して頂きます。要請は農業から生活改善等幅広いですが「自然と共に生きる術」をマラウイの方々から学ぶ事も私の目標です。

## 派遣中JICAボランティア (平成28年10月31日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数＝JICAボランティアの数としています。



## 長野県関係者 JICAボランティア派遣実績 平成28年10月31日現在

①青年海外協力隊員 派遣中 48名 累計 975名	③日系社会青年ボランティア 派遣中 1名 累計 25名
②シニア海外ボランティア 派遣中 3名 累計 76名	④日系社会シニアボランティア 派遣中 1名 累計 5名

## 新スタッフ **勅使瓦満理奈** てしがわらまりな

11月から駒ヶ根訓練所に勤めています。業務では主に候補者の語学訓練や表敬訪問を担当しています。私も協力隊OVで2013年からの2年間、体育隊員としてモルディブで活動していました。訓練期間中に過ごした頃から、この駒ヶ根の自然の豊かさと山の美しさ、人々の温かさに魅力を感じています。またここへ戻ってくることができて本当に嬉しいです。業務と共に、駒ヶ根をたっぷり知る、そんな日々を過ごしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します!

発行 **独立行政法人 国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所**  
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

**JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!**  
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

**JICA駒ヶ根 メールマガジン**  
配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp) までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、よりよい情報をリアルタイムでお届けします。